

掲載号：秋病薬報 Vol.12 No.2(34)

発行月：平成 19 年 12 月



薬局長 吹谷 英雄
文章 小林 俊子

「いらっしゃいませ」

ようこそ 大館市立総合病院へ。最高のお部屋をご用意いたしました。ごゆっくりおくつろぎくださいませ。

9 月末、市民の悲願でもあった市立病院高層棟が完成しました。



幸運にも最上階（11 階）の吸入指導を担当している私は、最高の景色を眺めながら仕事をすることができます。朝、霧の中から街が徐々に姿を現し、昼は四方の山々の紅葉、夕方は夜景と素晴らしい眺めです。5 階から 11 階まで全室展望良好です。また、仕事帰り外から眺める病院は、夜空に浮かぶ巨大行灯のようで、エレベーターホールはほんのり七色に明かりが灯っています。何故でしょうか？一見の価値あり。どうぞ大館市立総合病院へお越しく下さい。

さて、薬局は1階に居をかまえ穴倉生活です。昼なのか夜なのか？今日の天気はなんだったのか？誰もわかりません。唯一ある窓も隣の棟の外壁が見えるだけです。ホテルのような病棟とは随分異なりますが、新しい建物はやはり気持ちがいいものです。外来処方箋に加え、入院処方箋、入院定期注射箋、薬剤管理指導もオーダーリングになりました。未来日の至急処方箋、処方箋なしで薬袋のみプリントされるケースなど様々な怪奇現象を「ガリレオ」さながら真相究明し、少しずつ体で覚える毎日です。

オーダーリングに振り回されながらも、そのメリットを少しずつ感じ始めた今、薬局業務の見直しを図る時期にあります。簡易懸濁、NST、感染対策、褥瘡、薬剤管理指導業務、薬品管理、化学療法・・・全国的にみて標準的な業務がこなせているでしょうか？建物だけでなく私たちの意識もリニューアルしつつあります。



<化学療法ミキシング>



<調剤室オーダーリングシステム>